



コラム:主要国の高等教育レベル(ISCED レベル 5~8)における教員の年齢階層構成の状況

日本の大学では、若手教員の比率が減少する一方で、年長の教員の比率が増加しつつある状況にある(本文 2.2.3(4)参照のこと)。日本の大学教員の年齢階層に変化が生じていることがわかっているが、他国の大学教員においてはどのような状況なのだろうか。

本コラムでは、UNESCO が開発した教育の国際教育標準分類 ISCED (International Standard Classification of Education) 2011 のレベル 5~8 における教員を対象とし、主要国の高等教育レベル教員の年齢階層の構成を見た(図表 2-2-18)。

なお、ISCED2011 におけるレベル 5~8 とは、日本で言うところの大学等に加えて専修学校が含まれている。

日本は 40-49 歳の教員数比率が最も大きい。2005 年と比較すると、50 歳以上の教員比率はほぼ横ばい、25-39 歳の教員比率が減少し、40-49 歳が増加した。

ドイツは 39 歳以下の教員数比率が最も大きい国である。2005 年時点ではほぼ半数であったが、

最新年では半数を超えている。39 歳以下の教員数割合が増加したのはドイツのみである。次いで大きいのは 40-49 歳であり、49 歳以下の教員が 7 割を超えている。他国と比較して 49 歳以下の教員の比率が最も大きい。

フランスは、2005 年時点では 39 歳以下の教員数比率が最も大きく、次いで 50-59 歳の比率が大きかったが、2015 年では 40-49 歳の教員数比率が最も大きくなり、これに 50-59 歳の教員が続いている。

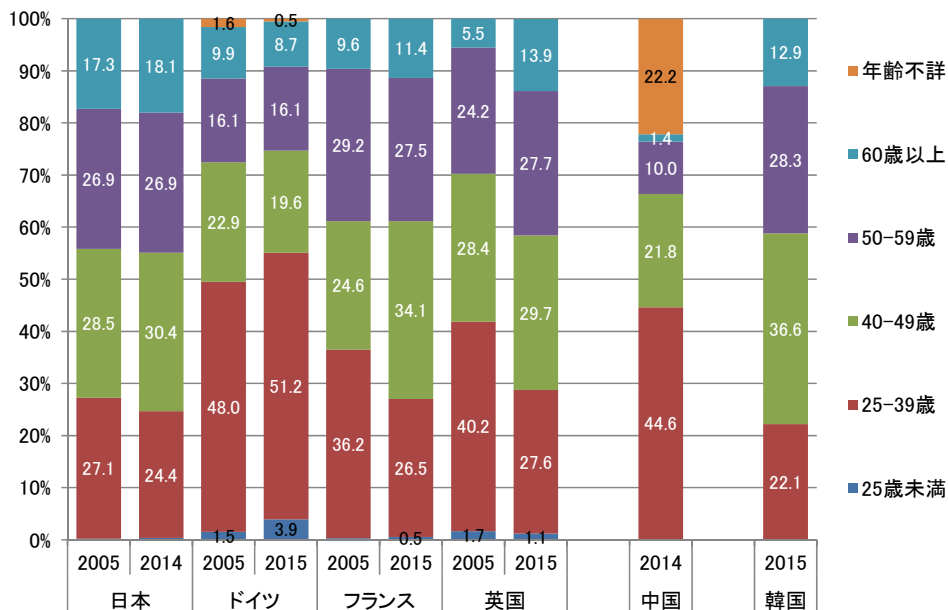
英国は、2005 年時点では 39 歳以下の教員数比率が最も大きく、次いで 40-49 歳の比率が大きかったが、2015 年では 40-49 歳の教員数比率が最も大きくなった。25-39 歳と 50-59 歳の教員数比率は同程度となった。なお、60 歳以上の教員比率は他国と比較しても、最も増加している。

中国では 39 歳以下の教員数比率が最も大きく、全体の約 45% を占める。

韓国は 40-49 歳での教員数比率が他国と比較しても最も大きい。次いで大きいのは 50-59 歳である。なお、39 歳以下の教員数比率が他国と比較すると最も小さい。

(神田 由美子)

【図表 2-2-18】 主要国の高等教育レベル(ISCED レベル 5~8)における教員の年齢階層構成



注:1)ISCED2011 におけるレベル 5~8(日本の大学等(短大、高等専門学校も含む))に所属している教員を対象としている。

2)日本と中国の 2014 年値とフランスの 2015 年値は、他のカテゴリーを含む。

資料: OECD, "Education at a Glance"

参照: 表 2-2-18